



地域おこし 協力隊だより

第7回

みやざわ ゆうき
宮澤 優輝



下妻市のみなさま、はじめまして。今年度の8月に地域おこし協力隊の委嘱を受け、早数カ月が経過しました。11月に入り緊急事態宣言も解除され、ようやく少しずつではありますが、下妻の魅力に触れることができるようになってまいりました。和太鼓や篠笛を長年続けてきた私ですので、来年こそは「下妻まつり」を実際に体感できればいいなと、今からワクワクしています。

協力隊の活動としては、下妻に縁のある「砂沼(≒下妻)な人々」を紹介する下妻市まちメディア「サヌマー」の運用をスタートさせることができました。サヌマーでは、下妻に関わる素敵な方々をインタビューさせて頂き、記事にしています。人の温かさや想いに触れることができるのはもちろん、下妻の歴史や未来についても話して頂いています。下妻の皆さまにこそ、読んでいただけたら嬉しいです。

また、下妻市内の旬な情報をお届けする「サヌマータイムス」も同時にスタートしています。市内の催しはもちろん、日々の小さな出来事まで「#下妻ぐらし」で情報発信していますので、ご活用ください。

【SNS】

■サヌマー

下妻市に縁のある「砂沼(≒下妻)な人々=サヌマー」を深掘りする、下妻市まちメディア。
<https://www.instagram.com/sanumer.shimotsuma>



SANUMER.SHIMOTSUMA

■サヌマータイムス

下妻市での暮らしに関わる様々な情報や、タイムリーな話題をお届けします！
<https://twitter.com/SanumaTimes>



問 都市整備課 ☎45-8128 FAX 43-2945

表敬訪問 全国重要無形文化財保持団体協議会 功労者表彰の報告がありました

本場結城紬：植野智恵さん

11月19日、表彰の報告のため市長を表敬訪問した植野さんは、長年にわたり、真綿かけと糸つむぎに携わってきました。また、積極的に実演などを行い、卓越した技術を公開することにより、技術の伝承に貢献してきました。本場結城紬技術保持会の伝承者養成事業の糸つむぎ講師としても活躍し、後継者の育成と保持会の発展に尽力していることが認められ、今回の表彰となりました。※全国重要無形文化財保持団体協議会は、重要無形文化財保持団体とその構成市町村で組織されている全国組織です。



真綿かけをする植野さん

第8回こども作文コンクール 「『ありがとう』感謝の心を、 未来へつなぐ。」大賞受賞

市立豊加美小学校5年生の飯塚滯さんが、読売新聞社主催・一般財団法人あんしん財団共催の作文コンクールで大賞を受賞し、横瀬教育長に受賞の報告をしました。

このコンクールは、小学生が「身近なはたらきと、ありがとう」や「あこがれの仕事、かなえたい夢」をテーマとするもので、全国から21,439の作品が寄せられました。受賞作のタイトルは「私ができる恩返し」で、自分の出生からこれまでのこと、また、将来の自分の目指す方向を綴った作品です。滯さんは「私を育ててくれたお母さんを考えながら書きました」と話していました。



左から稲川豊加美小学校校長、飯塚さん、横瀬教育長

やすらぎの里にイルミネーション

11月14日～令和4年1月15日

11月14日から来年1月15日の期間、やすらぎの里しもつまにイルミネーションが点灯されています。このイルミネーションは、地元ボランティア団体「蚕飼地区まちづくり推進委員会」により飾りつけられたもので毎年取り組まれているものです。

会場には親子連れなどが訪れ、イルミネーションを背景に、記念写真の撮影をしていました。



夜の公園を彩るイルミネーション

千代川地区の歴史をたどる

下妻街並みウォーキング開催 11月23日

下妻街並みウォーキングが、下妻いいとこ案内人の会(粉川孝会長)の主催で開催され、14人が参加しました。今回の企画は、物資輸送の拠点であった宗道河岸や、平安時代末期に東北地方に起こった前九年の役の際、源頼義・義家と戦った安倍宗任を祀った宗任神社、現存する最古の煉瓦水門であり、国登録有形文化財の江連用水旧溝「宮裏両樋」などの千代川地区の旧所・名跡をたどるものでした。

参加者は、市千代川庁舎を出発し、約2時間、鬼怒、宗道地区などを巡りました。参加した市内在住の70代の女性は「ゆっくり歩きながら街をまわると新しい発見がたくさんありとても楽しめました」と話していました。



「宮裏両樋」で説明を受ける参加者

下妻の秋を彩り豊かに

第36回下妻市菊まつり 11月1日～25日

11月1日から25日まで、大宝八幡宮境内にて恒例の下妻市菊まつりが開催され、今年も多く多くの菊が展示されました。展示された菊は、主催する下妻市菊花会(大月詮雄会長)の会員が精魂込めて育てた菊約550鉢で、秋が深まった境内を訪れた人々の目を楽しませていました。

大月会長は「残暑が厳しく、育てるのに苦労したが、会員のみなさんの努力により見事な花が咲きました」と話していました。



迫力ある特作花壇

地域の力でまちを美化

駒城橋隧道の落書き消しを実施 11月6日

青少年を育てる下妻市民の会上妻支部(塚越恵基支部長)の会員や市職員など17人が参加し、駒城橋下の隧道の落書き消しを行いました。落書きは隧道の側面両側約100㎡に及んでおり、環境の悪化が懸念されていました。参加者は、それぞれペンキの入ったバケツとローラーを持ち、落書きを白く塗り替えました。

塚越支部長は「長年放置されていた落書きが関係機関の協力で、自分たちの手で修復することができました。これまで地区の歩け歩け大会のルートではありませんでした。今年度はコースに組み込み、皆んなに見ていただけるようにしたいと思います」と話していました。



落書きを消す参加者